



2000人の心に届いた 舞台にかける情熱と友情

舞台で輝く子どもたちの姿にこそ 私たちの未来がある
阿南から発信しよう 『がんばろう日本』を！

「うを座」の活動が気仙沼復興の力となる。そんな「夢創」の思いが多くの人の心に届き実現した気仙沼復興支援合同ミュージカル。舞台を通して子どもたちの健やかな成長と、強い絆が結ばれることを願って、8月28日、阿南市市民会館大ホールで開催されました。

「夢つむぎの詩」は、「うを座」のオリジナル作品。縁あって、平成16年の「夢創」第7回公演では、「うを座」から友情出演するなど、互いが交流を深めた作品でもあります。

今回の合同公演には「うを座」からOB・OGを含む10人が参加。「夢創」の保護者やスタッフ等を含め101人で臨む大舞台となりました。

ミュージカルは、昔懐かしい木造校舎のシルエットから始まります。山奥にある「竹の子村分校」に転校してきた少女と村の子どもたちが、心の中にある「夢つむぎ」と触れ合うなかで、親と死別した悲しみを乗り越え、歌う楽しさや生き喜びを見つけていくという物語です。

「夢つむぎ」とは、心の中に居る悲しみや喜びを分け合ってくれた友達。夢と一緒につむいでくれる大切な仲間たち。その不思議な存在が物語のなかで解き明かされていきます。迫真の演技を繰り広げる子どもたちの姿が、震災の悲しみを乗り越え、前向きに生きていこうとする姿と重なり、多くの人の心を打ちました。「人には悲しみを希望に変える力がある」そんなメッセージが伝わってきたとき、私たちも深い感動に包まれました。

「夢にあふれる時代がきつとくる、きつと来る。希望に満ちた時代がきつと来る、きつと来る」テーマソングを熱唱する出演者たちのきらめく笑顔は、舞台をやり遂げた充実感に満ち、「きつとがんばれる」という強い絆で結ばれていました。阿南の地で結実した友情、そして舞台にかけた情熱は、気仙沼復興への確かな原動力となり、未来を切り開く希望の光となってくれることでしょう。

「がんばろう日本」を阿南から！。この思いに終わりはありません。

僕を変えてくれた人たちへ 「ありがとう」

僕は、今回初めての舞台に立ちました。入団間もないころは、みんなの輪の中に入れず、辞めたいとか練習に行きたくないとかいろいろ悩みました。でも、日が経つにつれみんなとも話をするようになり、早くみんなに会いたいと思うようになりました。台本が渡され、自分の役（友和）が性格とは正反対の、とても明るくみんなを笑わせるような役とわかり、正直嫌でした。でも、重要な役をもらったのでがんばろうと決意しました。練習では、毎日怒られてばかり。ずっと自分から逃げ続けていました。そんな時、東京から指導に駆けつけてくれた役者の方にいろいろなことを教わりました。おかげで、「うを座」のみんなと一緒に練習をするなかで、東日本大震災でつらかったことや傷ついたことを聞いてあげることができました。本番では、練習してきたすべてを出し切りました。こんなに熱中し、本気で取り組んだのは初めての経験でした。今回の舞台を通して、自分自身が大きく変わることができました。最後に、先生やみんなに「ありがとう」を言いたいです。



那賀川中学校2年
三村 拓海 さん

今回の舞台は私にとって、とても大切な思い出となりました。実際に震災を受けた人たちと一緒に舞台をするというのは、思っていた以上に考えることが多く、自分の考えの甘さにうんざりしたり、悩んだりもしました。しかし、先生が持ってきてくれた資料を読んだり、インターネットで調べたり、舞台をする理由を考えたり、できる限りのことはしました。

今でも舞台を通して学んだことはたくさんありましたが、特に今回学んだことは、相手を思いやるということです。相手の気持ちをわかるのは難しいけれど、わがやうと努力したり、考えてみたり、興味を持つたりすることが「本当の思いやり」だと思

『本当の思いやり』

城東高校2年
片山 怜菜 さん

「日本が、夢にあふれた、希望に満ちた国になるように、今できることをしていきたいです。」





2,000人が詰め掛けた



宿泊・食事は渡辺純子さんにお世話になりました



指導者・鎌田真由美さんとの再会を喜ぶ「うを座」の皆さん



チャリティーシートの収益金と支援金の目録を贈呈



阿波踊りで歓迎する「夢創」の皆さん



気仙沼市内で活動する「うを座」を訪問

感動の舞台をもう一度
「夢つむぎの詩2011」が
ケーブルテレビで放送される予定です！
※放送日は未定です。
舞台を収録したDVDも販売予定！
くわしくは、お問い合わせください。
問い合わせは
劇団「夢創」事務局 ☎22-0268へ

11ch

「うを座」座長 鈴木恒子さん
3月11日、私たちは大切な家族、親類、親しい友、知人を亡くしました。生き残った私たちの半数も住み慣れた家、長い間培ってきた日々の暮らし、そして未来、その全てを瞬間に失いました。瓦礫となったふるさとのまちで、ただ呆然とした日でした。
3月の末、この舞台の演出・振り付け・ダンスの指導をしていただいたおられます鎌田真由美先生が、たくさんのお支援物資を大きなバスに乗せて私たちに会いにきてくださいました。それが被災後、初めて子どもたちの元気な顔を確認した日でもありました。
その鎌田さんから思いがけない提案をいただいたのです。今日のこの舞台です。私は無理だと思いましたが、折れそうな心を必死に堪えて、あの災害時で一生懸命頑張っている私たちには、舞台上で費やすエネルギーはない、そう思いました。でも、今日こうして実現させていただきました。今は奇跡と思えます。
舞台では、子どもたちがいつものように命を輝かせて、キラキラ、キラキラと躍動しました。私は、この姿をずっと見ていたくて長い間活動を続けてきました。阿南では、皆さんの温かいおもてなしをいただいて、「夢創」の子どもたちとも仲良くさせていただきました。一生忘れられない思い出です。この感動を、「うを座」を育ててくれたふるさと気仙沼の人たちと一緒に味わいたいと思つて、その決意を新たにしています。遠く離れていますが、阿南と気仙沼で同じ舞台に夢を持つ私たちが、いつかまたこんな素晴らしい舞台ができることを夢みてこれからも頑張つていきます。
どうぞ皆様、「夢創」の皆さんをぜひ応援してください。ありがとうございました。

子どもたちの姿にこそ
私たちの未来があると
信じて



夢・勇気・感動を
舞台から発信！

「夢創」団長 久米良久さん
3月11日の大震災で風光明媚な気仙沼は壊滅的な被害を受けました。一日も早い復興を心から願っております。
震災後もなく、「うを座」の子どもたちを元気づけたい、「復旧・復興で大変なときだが、子どもたちに夢と勇気を与えることが何よりも大切だ」として、「うを座」の活動が気仙沼復興の力になる」という思いでこの合同ミュージカルを企画いたしました。

趣旨にご賛同いただき多大なるご支持をいただいた指導者の先生方、スタッフの皆さん、ご奉仕をいただいた皆さん、そしてチケットをご購入いただき会場にお越しくださいました皆さんのおかげをもちまして、本日の公演を無事に開催することができました。すべての皆さま方からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



気仙沼と徳島・阿南が
一緒に夢をつむいで

「うを座」
事務局長 伊東毅浩さん

震災の当初、阿南市をはじめ、全国、世界中の皆さんからたくさんのお支援をいただき、それが今も続いております。

私たちは初めのころ、自分たちが被災者で、それを支えてくださる皆さんが支援者だと思っていました。しかし、途中から少しずつ考えが変わりました。そして、ここ阿南に来てその考えが確信に変わりました。それはつらい思いをしているのは、心を痛めているのは私たちだけでは、ない。ここにいる皆さんも「何かしたい、何とかしてあげたい」というつらい思いをしてらっしゃった、ということを私は痛切に感じました。ですから、今回は、皆さんの思いをいただくだけではなく、ここにいる「うを座」の子どもたちが、皆さんに勇気と希望を少しでも届けたいと思つてまいりました。皆さん届いたでしょうか！

私たちは、徳島県のことを阿南市のことを決して忘れません。皆さんもぜひ気仙沼のことを、そして三陸一帯がつかない思いをしたということをお忘れなくください。そして、これからは、ここにいる子どもたちが中心となって気仙沼と徳島・阿南が一緒に夢をつむいでいけるように、どうぞ末永く応援をよろしくお願いたします。このたびは、本当にありがとうございました。

夢にあふれる時代が きっと来る きっと来る 希望に満ちた時代が きっと来る きっと来る

